Save the Children

セーブ・ザ・チルドレン ニュースレター
September 2018 No.73



特集

自然災害から子どもの命を守る

© Li Pasion/Save the Children



© Saikat Mojumder/Save The Children

暴風雨を伴う大型サイクロンがバングラデシュ沿岸部を直撃。10万軒以上の家屋が損壊し、住民は避難を余儀なくされた。

特集

自然災害から子どもの命を守る

日本で、世界で、頻発する自然災害により子どもたちの命と暮らしが危機にさらされています。
災害の発生直後にいち早く実施する緊急支援、そして、今後起こりうる災害から子どもの命を守るための防災―。セーブ・ザ・チルドレンが国内外で取り組んでいる活動をお伝えします。

自然災害における支援はなぜ必要？

気候変動の影響で自然災害の発生数が増加

気候変動が、地球に大きな影響を与えています。過去30年の間に、暴風雨・干ばつ・水害の発生数は3倍に増え、災害の被害に遭う人の数は5倍になりました。国連国際防災戦略事務局（UNISDR）は、災害により年間平均8万人が死亡し、約2億人が被害を受けていると報告しています。

子どもは自然災害の影響をより強く受けます

災害によって家族が収入源や財産を失うことで、子どもは食料や医療、住居、教育などにおいて大きな影響を受けることが少なくありません。児童婚や児童労働といった、さらなるリスクに直面することもあります。自然災害の影響をより強く受けやすいのは、子どもたちです。

自然災害は教育に大きな影響を及ぼします

自然災害により学校が避難所や臨時の診療所となることで、教育の機会を奪われる子どもたちがいます。長い間学校に通えないことで、被災後のトラウマから回復するのが遅れることも。また、校舎の強度の問題から、2004年以降で約3万人の子どもたちが学校で命を落としました。

持続可能な開発目標の目標13「気候変動への対策」

気候変動やその影響を止めるために、すぐに行動を起こすことが、持続可能な開発目標（SDGs）の一つとして掲げられています。すべての国が、気候変動に対し迅速に取り組み、自然災害に対する備えを強化し、災害に強く、かつ災害から回復する力を高めることを目指しています。

日本国内での活動

西日本豪雨 子どもたちへの緊急支援

2018年7月に西日本を襲った記録的な豪雨による被害を受け、緊急支援を開始。東日本大震災や熊本地震、九州北部豪雨における緊急・復興支援の経験をもとに、子どもたちや家族に寄り添った活動を続けています。



岡山県倉敷市真備町で実施した「こどもひろば」

7/6~8 「大雨特別警報」が11府県で発表

7/9 子ども支援のニーズ調査を開始

これまでに国内の緊急支援に対応した職員などから構成される西日本豪雨緊急支援対応チームを立ち上げ、岡山県倉敷市真備町を中心に調査を開始。



7/15・16 「こどもひろば」を実施

真備町の避難所に隣接した施設で、子どもたちが安心・安全に過ごすための空間「こどもひろば」を実施。

「こどもひろば」とは、子どもたちが被災前の日常生活で行っていた遊びなどを通し、同世代の子どもたちと子どもらしくいられる時間を取り戻し、被災による影響からの立ち直りを支える場です。1日約40人の子どもたちが、風船遊びや粘土遊び、スタッフによる絵本の読み聞かせなどを、思い思いに楽しみました。



保護者の声

子どもは体を動かす場所がなくストレスがたまっていたのですが、ここで自由に遊ぶことができて楽しんでいました。一日中片づけをしている間に子どもが安全にいられる場所があって、本当に助かりました。

7/18 学童施設への備品提供を開始

被災地域の子どもを受け入れている放課後児童クラブ（学童保育）の施設に、救急セットやビニールプールなどの備品を提供しました。



8/2 岡山県が実施する「被災地域の子どもの安全・安心な居場所」事業に協力（8/31まで）

岡山県が主体となって実施し、県内で活動するNPOが運営を総括する、「被災地域の子どもの安全・安心な居場所」事業への運営協力を開始。子育て家庭が安心して家の片づけなどができる環境を整えるとともに、長引く避難生活で子どもがストレスや健康上の問題を抱えないよう、子どもが安全に、安心して過ごすことのできる居場所を確保することを目的に設置されました。

毎日20～30人の子どもたちが参加し、ぬり絵やブロック遊び、子ども同士での集団遊びや、勉強などをして過ごしています。





子どもたちの昼食も支援

岡山県職員の声

セーブ・ザ・チルドレンから、子どもたちが安心・安全に過ごすことができる場の必要性を伺い、この事業を実施することを決めました。

今後も、学用品の提供などを通し、子どもたちに寄り添った活動を続けてまいります。

7/9 「子どものための心理的応急処置」の周知を開始

誰もができる緊急下の子どものこころのケア「子どものための心理的応急処置」を、被災地で子どもと関わる方々が活用できるよう周知。研修やパンフレットの配布、特設サイトでの情報発信を行っています。



「子どもは、『震災ごっこ』や『水害ごっこ』など、起きた出来事を遊びの中で表現したりすることがあります。これは子どもの自然なストレス対処方法の一つでもあるので、遊びを無理に止めずに見守ってください」



特設サイト
www.savechildren.or.jp/lp/pfa/

研修実績

【岡山県】倉敷市学童保育連絡協議会主催研修
岡山県学童保育連絡協議会主催研修
くらしき作陽大学主催研修
NPO法人Color主催研修
【愛媛県】なんよキッズ事務局主催研修　ほか

海外での活動

子どもが主役の防災

自然災害による被害を未然に防ぐために、各地で防災（災害リスク軽減）の活動を進めています。子ども特有のニーズが地域の防災計画に反映され、災害時に子どもが主体的に行動できるように―。
アフリカとアジアの事例を紹介します。



インドネシアの小学校における避難訓練の様子
© Jonathan Hyams/Save the Children

Uganda ウガンダ

洪水、そして干ばつ。気候変動の影響を受け自然災害が多発する地域で、子どもたちとともに住民の災害対応能力を高めます。



学校に「防災クラブ」を立ち上げ、子どもたちが防災の知識を発信。

ウガンダ西部に位置するカセセ県で、セーブ・ザ・チルドレンは小中学校に「防災クラブ」を立ち上げ、子どもたち自身が防災に関する知識を啓発できるよう支えています。防災クラブのメンバーはこの日、校庭で他の生徒たちを前に、応急手当のデモンストレーションを行いました。同世代の子どもたち同士が考え、学び合うことで、子どもたちが主体的に防災に取り組む力が身に付きます。



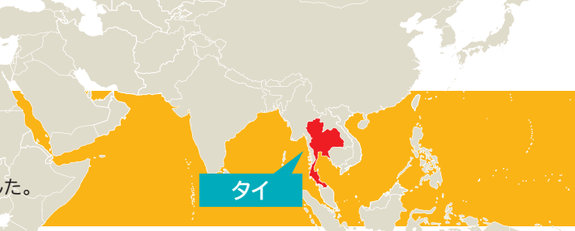


学校菜園で、自然災害に強い農法を導入し、給食に活用。

この地域では、自然災害で農作物が不作となり、食料不足が発生することもありました。そこで防災クラブは、災害や気候変動に強い農法を、学校菜園を通じて導入。子どもたちの給食に活かされるほか、農業を営む地域住民への啓発の一助となっています。

Thailand タイ

自分や友達を水の事故から守るために―。
子どもたちが、子どもたちのための防災教材をつくりました。





どうしたら身を守れる？子どもの声が啓発教材に。

洪水、サイクロン、そして津波など、水に関連する自然災害の被害を受けやすいタイでは、年に2,600人以上の子どもが水の事故で犠牲になっていると言われています。
セーブ・ザ・チルドレンは、水泳訓練などを通し、水の事故から命を守る方法を伝えるとともに、子どもたち自身が参加して教材をつくる活動を行っています。
「水の事故に遭うのは何が原因？」「防ぐためには何が必要？」子どもたちが意見を出し合い、子どもの視点やニーズがつまったオリジナルの教材が完成しました。

子どもたちがつくった、水の事故予防を考えるための物語

海で忘れてはいけないのは？

「海に入る前に救命胴衣を着るのを忘れないでね」と友達のモグラに言われていたウサギ。すっかり忘れて海に飛び込んだら、溺れてしまいました。カメは周囲に助けを求めたり、浮きになるようなボトルを投げたり、冷静に行動しています。







大切なのは、「みんなで協力すること」

溺れているウサギを見つけた動物たち。「助けて！助けて！助けて！ウサギが溺れているよ！」と叫ぶモグラや、長い木の枝につかまるよう差し出すヒヨコ。それぞれが力を出し合います。みなでウサギを引っ張り上げ、無事に助かりました。



危機の開始から1年

ロヒンギャ難民の子どもたちへの緊急支援

セーブ・ザ・チルドレンはこの1年間で、緊急支援物資の提供や、保健、教育、子どもの保護などの分野で、354,304人の子どもを含む611,635人のロヒンギャの人々に支援を届けました。



避難生活を送るミノラさん（25歳）と娘のザヒーダさん（3歳）。セーブ・ザ・チルドレンが設置した仮設トイレの前で。
「ここにはライトがあるので、夜、襲われる不安が減りました」とミノラさんは話します。

© Daphnee Cook/ Save the Children

2017年8月25日以降、ミャンマー・ラカイン州北部で激化した暴力や人権侵害から逃れるため、この1年の間で隣国バングラデシュに72万人以上の人々が避難しました。その半数以上が、18歳未満の子どもです。
家族の殺害や、家の焼き討ちなどの恐怖を体験した子どもたちが、命の危機にさらされながらたどり着く難民キャンプ。そこでの暮らしもまた、過酷さが続きます。右の写真のように仮設シェルターが密集し人口は過密状態で、感染症流行のリスクは極めて高く、栄養不良の状態にある5歳未満の子どもたちも多くいます。
そのような状況に対し、セーブ・ザ・チルドレンは、食料・衛生用品やシェルターの提供、保健センターや「こどもひろば」の運営など、ロヒンギャの子どもたちとその家族への支援活動に継続的に取り組んでいます。



© Jonathan Hyams / Save the Children

感染症から守る衛生キット

難民キャンプでは麻疹（はしか）やジフテリアなどの感染症が流行し、子どもたちの命が危機にさらされています。さらに、豪雨によってキャンプ内のトイレや井戸が損傷し、溢れ出た排泄物と雨水が混ざり合うことで、衛生状態がさらに劣悪になると懸念されています。
避難生活を送る人々の衛生状態を守るために、セーブ・ザ・チルドレンは石鹸や洗剤などの衛生キットを配布しています。



© Daphnee Cook / Save the Children



© GMB Akash / Save the Children

暮らしを支えるシェルターキット

避難キャンプのあるバングラデシュ・コックスバザールは、6月から本格的なモンスーン期に突入。豪雨と強風が難民キャンプを襲いました。
セーブ・ザ・チルドレンは、キャンプに到着した人々が仮設の住居を準備できるようシェルターキットを提供するほか、暴風雨による被害に備え、シェルターを補強するための支援を行い、子どもたちやその家族が安全に過ごせるよう支えています。

PARTNERSHIP INFORMATION

12年目を迎えたチャリティーイベント

各界の著名人がアートワークを施したトートバッグ作品を出品

無地のトートバッグに、各界の著名人の方々が思い思いのアートワークを施した、世界でたったひとつのトートバッグ。これらの作品をオークションで販売し、セーブ・ザ・チルドレンの活動にご支援いただくイベントが、今年で12年目を迎えました。2007年以来、このイベントを通して、総額約 4,500万円のご寄付をいただきました。

熊本の子どもたちを支援

2016年以降、ご寄付は熊本地震で被災した子どもたちへの支援に活用されています。2018年の第12回 ROOTOTEチャリティーイベントでは、芸能、文化、スポーツなどさまざまな分野から、主旨に賛同した著名人52組がご参加くださいました。すべての作品がウェブサイトでご覧いただけます。

http://rootote.jp/toteascanvas/charityevent/

※ 西日本豪雨の発生を受け、ご寄付は西日本豪雨被災地での活動にも役立てられます。



トートバック専門ブランド ルートート

FUN OUTING ROOTOTE®

ご担当者様の声

ROOTOTEチャリティーイベント事務局
株式会社スーパープランニング
今井 里子 様

12年間続けてきたことで、多くの方に認知されてきました。賛同いただいた著名人の方がさらに別の著名人の方をご紹介くださるなど、協力の輪が広がっています。
今回は女優の福田沙紀さんやタレントのスザンヌさん、俳優／デザイナーの植野堀誠さん、といった熊本出身の方々もご参加くださいました。著名人の方々が想いを込めて描いたトート作品を沢山の方々にぜひ観ていただきたいです。これからもトートバッグを通じて、子ども支援に協力させていただきたいと思います。


IMALU 様(タレント)


ロバート 様(芸人)


ガンバレルーヤ 様(芸人)


早田 ひな 様
(卓球選手)


福田 沙紀 様(女優)

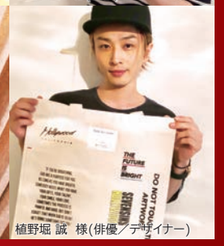

アヤカ・ウィルソン 様
(女優・モデル)


鈴木 アレイシオ 様
(プロサッカークラブ/Jリーグ)


ジョン・カビラ 様
(キャスター/ラジオ・
テレビパーソナリティー)


松本 幸四郎（十代目）様(歌舞伎俳優)


スザンヌ 様(タレント)


植野堀 誠 様(俳優／デザイナー)

スタッフの一日　ウガンダ駐在員　渡邊 紗世



ウガンダに逃れている南スーダン難民の子どもたちを虐待、児童婚などから守る活動や、就学前教育・栄養支援を行っています。



ウガンダってどんな所？
国内の紛争により不安定な時期が続き、約4,000万人の人口に対し一時は200万人近くが国内避難民となりました。現在は100万人以上の南スーダン難民が避難生活を送っています。日差しが照り付ける難民居住区では暑い日々が続いています。

出勤 08:00

事業地へ 09:00

3～6歳を対象とした就学前教育をモニタリング。改善点を探り、1ヶ月後に企画している先生への研修内容を他のスタッフと考えます。



会議 14:00

「こどもひろば」の木陰でケース・ワーカーと会議。個別の支援を必要とする子どもへの家庭訪問の状況や対応策を話し合います。



「ミンゴニ！」(調子はどう？)、「マムケ！」(元気だよ！)

アルア事務所のスタッフは約60人。ウガンダ出身でないのは私一人ですが、生活についてわからないことはいつもスタッフが教えてくれます。

13:00 昼食

ウガンダ名物ロレックス！小麦粉で作られるチャパティという生地でオムレツを巻いたもの。いたる所に屋台があります。おいしい！



17:30 帰宅

市場やスーパーで食料品を買い、自宅に戻ります。運動不足になりがちなので、週1回、近所の人と一緒にエアロビクスをしています。

事業報告会を開催しました

7月13日に大阪で、7月20日に東京で、海外事業報告会「故郷を追われて−シリアとロヒンギャの子どもたちの今」を開催。セーブ・ザ・チルドレンのサポーターの皆さまをはじめ、2会場で計70名以上の方々にご参加いただきました。



プロ棋士のチャリティ将棋イベント

7月22日、9名のプロ棋士によるチャリティイベントが開催され、オークションなどの収益42万円を西日本豪雨緊急支援にご寄付いただきました。

ご協力いただいた棋士：戸辺誠七段、八代弥六段、三枚堂達也六段、渡辺大夢五段、近藤誠也五段、髙野智史四段、杉本和陽四段、加藤桃子初段、渡部愛女流王位



遺贈・相続・香典寄付のご案内

おひとりおひとりの「想い」を実現するため、オリジナルの遺贈・相続寄付プランをご案内しております。

■ 資料のご請求、お問い合わせは
コミュニケーションズ部 担当：吉田 沙和子
TEL:03-6859-0068　japan.legacy@savethechildren.org

ACジャパンの支援による広告がスタートしました

セーブ・ザ・チルドレンは今年度、公益社団法人ACジャパンの支援団体の一つに選ばれました。2018年7月1日より、テレビや新聞・雑誌などのメディアや公共交通機関が無償で提供する広告枠において、セーブ・ザ・チルドレンの広告が展開されています。広告のテーマは、「問題」。

この広告を通して多くの方が、世界の子どもたちが置かれた状況と、子どもの権利を守るために活動するセーブ・ザ・チルドレンへの関心を高めてくださることを願っています。



詳細と「問題」の答えはこちら http://www.savechildren.or.jp/lp/ac2018/

このポスターを掲示しませんか？

ACジャパンによるセーブ・ザ・チルドレンの広告ポスターを掲示していただける企業、学校、団体を募集しています。

サイズはB2(51.5㎝×72.8㎝)、B3(36.4㎝×51.5㎝)の2種類がございます。ご協力いただける場合は、ご希望のサイズ、枚数、送付先をご連絡ください。ポスターを通してセーブ・ザ・チルドレンを広く伝える活動にご協力ください。※ご希望の枚数によっては、送料のご負担をお願いする場合がございます。

コミュニケーションズ部　TEL：03-6859-0068　japan.saveothers@savethechildren.org

編集後記

「階段まで水が来たんだ」「私のドレス、流されちゃった」。西日本豪雨の緊急支援の現場で聞いた子どもたちの声です。ふとした時に、ぽつりぽつりと話す子どもたち。そんな彼らのこころを傷つけず対応するために、「子どものための心理的応急処置」が心強い支えとなりました。見る、聴く、つなぐ。シンプルな原則をウェブサイトで紹介しています。(編集担当：高橋)

表紙写真：大型台風により甚大な被害を受けたフィリピン南部。子どもたちが学習を続けられるよう、学用品や仮設の学習スペースを支援。(2018年1月)

Save the Children

www.savechildren.or.jp
セーブザチルドレン　検索

セーブ・ザ・チルドレンは、日本を含む世界120ヶ国で子ども支援活動を行う、民間・非営利の国際NGOです。子どもの権利が実現された世界を目指し、約100年にわたり活動しています。

＊この冊子の印刷におきましては、協和オフセット印刷株式会社に多大なるご協力をいただきました。

ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C020246
FSC www.fsc.org

この冊子は、適切に管理されたFSC®認証林からの原材料および、再生資源やその他の管理された原材料から作られた、環境配慮型のFSC®認証紙を使用しています。